

鈴川の

富士塚

平成元年二月五日号

元吉原中学校の西百メートルほどのところに、富士塚と呼ばれている小山があります。今回は、この塚に伝わる話を鈴川西町の小川修一さんに語ってもらいました。

役の行者がつくる

今から約千三百年ぐらい前、役えんの小角おづぬと呼ばれた行者がいきました。

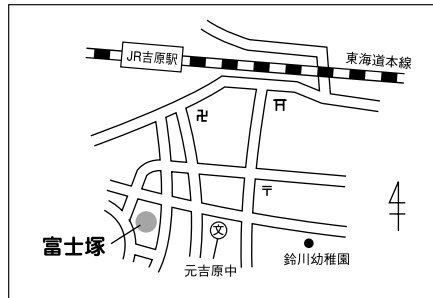
役の行者は修験道しゅげんどうの開祖といわれ、伊豆大島に流されたときに、夕方島を出て富士山に

登り、朝には帰ってきたといわれる人です。

富士山に対する信仰の念が厚い役の行者は、富士山の見える国々に、富士山をなぞらえた高さ三丈(約九呎)ぐらいの小山をつくり、はるか大富士の遥拝所としました。富士塚はそのうちのひとつといわれます。

富士登山の安全を祈る

室町から江戸時代には、富士山で修行する修験道者が急にふえました。修験道者は鈴川海岸で水を浴び、身も心も清めました。そして、玉石を一つずつ富士塚にささげ、富士登山の安全を祈りました。





▲ 富士塚（平成13年撮影）

北条氏の本陣となる

また、富士塚は天の香久山あまかぐやまとも言われました。戦国時代には香久山のとりで、香久山城、あるいは吉原城とも呼ばれました。

富士塚は吉原湊みなとを控えた要衝で、この制覇をめぐって、争いが起こりました。北条氏康・氏政親子は、富士塚を本陣として、今川・武田氏と戦いました。

昭和五十一年に復元

その後、富士塚は戦争前ごろまで静寂として、神秘的な場所でした。ところが、昭和四十年ごろから、灯籠とうろうや玉石を持ち去られるようになり、四十五年には、ほこらまでなくなっていました。

現在の富士塚は、昭和五十一年に地元民の寄附などで復元されたものです。

語ってくれた方 小川修一さん